



ちよふ

CONTENTS(主な内容)

新型コロナワクチン.....	2
ミニバス北路線(調37系統)の延伸.....	3
特集 読むって楽しい! 広げよう子どもの読書.....	8・9
災害への備えはできていますか.....	10
ちよふ地域コミュニティサイトがリニューアル.....	16



発行: 調布市 (毎月5日・20日発行) 所在地: 〒182-8511 東京都調布市小島町 2-35-1
編集: 行政経営部広報課 市ホームページ: <https://www.city.chofu.tokyo.jp/>

☎042-481-7111

市報ちよふの配布に関する問い合わせは
市報ちよふ配布コールセンター
☎042-300-3131

問 中央図書館 ☎441-6181

4月23日~5月12日
こどもの読書週間
23日は子ども読書の日

読むって楽しい! 広げよう 子どもの読書

たくさんの本が並ぶ図書館は、子どもが“かけがえのない一冊”に出会える場所です。子どもと一緒に絵本を読んで楽しい時間を過ごしてみませんか。



図書館の詳細は8・9面をご覧ください →

手をつなぐ樹 403



あの時代の感激

路線バスの隣の停留所からの下り坂の勾配が、子ども心には極めて急に感じられたものだ。その坂を下り終わったところが、一家5人の新たな生活の場となる100棟以上を有する大きな団地の入口だった。

ときは昭和33(1958)年4月。父の転勤により広島市から大阪府豊中市に移り住み、幸運にも当選した建設間もないDKの公団住宅に入居することになったのだ。私は6歳の年で幼稚園児だったが、新たな住まいに足を踏み入れた時のカルチャーショックともいえるべき驚きをいまだに覚えている。

一つは水洗トイレだ。まだ汲み取り式の便所しかなかった頃の日本で、初めて間近に見る文明の利器(?)に興奮のあまり用もないのに何回も水を流して親に怒られた。もう一つは自家風呂。まだまだお風呂屋さんが入浴できることは一つの感動だった。お風呂屋さんの楽しみだったコーヒー牛乳は飲めなくなってしまうが。

その頃、今からは想像できないほどすべてにおいて不便利な時代だったからこそ、日常生活が便利になるときの感激は、疑いなく現在より大きなものであったと言えよう。

春4月、毎年のようにはるか昔の転居を思い出す。そして、今年もこの季節多くのご家族が転勤等で移動されるわけで、コロナゆえに発生しているに違いないさまざまなご苦労に深い同情の念を抱かざるを得ない。本当にお疲れ様です。

調布市長

友友貴樹